あ　い　さ　つ

教育協議会
会長　　矢崎富重

東山梨教育協議会は創立以来４２年間「平和を守り真実を貫く民主教育の確立」を基本目標に掲げ，「人間性豊かな子どもの育成とその学習を保障する教育活動の探求」を統一テーマに全会員により研究を重ねてきました。私たちの先輩が築き上げてきた研究であり、三者が一体となって組織的に進めている、他県には例のない素晴らし研究組織です。この研究誌の創刊は昭和３８年で、東山教育の歴史を知る上で貴重な資料となっています。

今年度も、ここに平成１８年度東山梨教育協議会の研究の成果を集録した「東山梨教育研究第４５号」が、発刊される運びになりました。日々、多忙の中で、私たちの命である研究実践を大切にし意欲的に積み上げてきた会員の皆様方に心からお礼申し上げます。

さて、今年度、大きく教育界を揺るがした子どもをめぐる問題は、なんといってもいじめ、それに伴う自殺問題であります。文部科学省へ自殺を予告する手紙が入り、それが大きく報道され、各学校へ注意を呼びかける文書がすぐ配布される・・・という異常事態にもなりました。いじめ問題は過去にも何度となく問題になり各学校で取り組みがなされてきました。なかなか根の深い問題をはらみ頭を痛めている大きな問題です。勿論、日々の子ども達の様子を見つめ、早くいじめを探知し、素早い適切な対応は欠くことはできません。しかし、原因を一つに絞りこんで取り組んでもなかなか真の解決とはならない問題です。いろいろの側面があり学校と家庭と地域がそれぞれの機能を発揮し連携していくことが大切であると思います。各方面で日々取り組みがなされているところであります。このことは、突き詰めていくと、道徳教育の充実に行き着くような気がします。

今年度は、いじめ等の教育問題を受け、教育再生が声高に叫ばれています。主に学校に視点を当てた論議が多いように思います。今年になり教育の根本法規である教育基本法が改正され、今後、学校への改革は大きなうねりとして押し寄せてくることが予想されます。

そのような中で、教師一人一人が確かな教育観を持ち、自信を持ってこれからの教育実践を進めていかなければなりません。そして、今こそ、この教育協議会の良さを確認し、確かな組織研究としていく必要を感じます。

子どもの全面発達を保障するため、子どもの実態を正確に捉え教育課題を明確にし「わかる授業」「楽しい学校」の創造のため、どのようにしたらよいか真剣に考え、研究を進めていきたいと思います。

終わりに私たちの研究活動を物心両面にわたり支え、指導していただいた多くの方々に心から御礼を申し上げあいさつと致します